



震災直後のメリケンパーク

第1節 被害の概要 6

- 1 地震の規模 … 6
- 2 市民生活への影響 … 6
- 3 都市機能の被害 … 7
- 4 神戸産業の被害 … 8

第2節 職員・職場の被害状況 8

- 1 職員の死亡と被災状況 … 8
- 2 神戸市役所の庁舎や
事務所の被害も甚大 … 9

第1節 被害の概要

1995(平成7)年1月17日午前5時46分に発生した淡路島北部を震源地とする「阪神・淡路大震災」(兵庫県南部地震)は、日本で初めての大都市で起こった震度7という観測史上最大の揺れを伴う直下型地震であり、4,571名(神戸市内)におよぶ尊い命を奪いました。

市内の被害状況は、旧市街地を中心に全壊・全焼建物74,386件、半壊・半焼建物55,225件。避難所に避難した市民は最大時には約24万人

にも及びました。道路は、阪神高速道路3号神戸線・同5号湾岸線などの倒壊・桁落下をはじめ、倒壊家屋による道路封鎖約1万件と交通網は寸断されました。また、電気は全域停電、ガスは約80%停止、水道は全域停止、下水道は東部処理場の破損含め管渠の寸断など、ライフラインも1月23日に復旧した電気以外は、3月以後の復旧となるなど市民生活に重大な支障となりました。

1 地震の規模

○発生日時：1995(平成7)年1月17日

午前5時46分

○震源：淡路島

(北緯34°36' 東経135°02')

○震源の深さ：約16km

○規模：マグニチュード7.2

○震度：震度6(一部地域で震度7)

○特徴：横揺れと縦揺れが同時に発生

2 市民生活への影響

死	亡	者	4,571人(H12.1.11)	【公共施設の被害】 ・市役所、病院などの重要公共施設の破損、倒壊 【学校教育・社会教育・文化施設の被害】 ・学校園の約85%が被災 ・博物館、中央図書館旧館、ポートアイランドスポーツセンター等の破損、倒壊 ・酒蔵、異人館等の破損、倒壊
不		明	2人	
負	傷	者	14,678人(H12.1.11)	
特		徴	・高齢者(60歳以上)が死亡者の約58% ・家屋倒壊による死亡多数(窒息・圧死が全体の約73%)	
避難 (ピーク時)	箇所	数	599箇所(H7.1.26)	
	避難	人数	236,899人(H7.1.24)	
	避難所	就寝者数	222,127人(H7.1.18)	

※資料「阪神・淡路大震災 神戸の生活再建・5年の記録(神戸市生活再建本部)」参照

【区別の被害状況】

◆人的被害（平成12年1月11日変更）

（人）

	東灘	灘	中央	兵庫	長田	須磨	垂水	西	北	合計
死亡者	1,471	933	244	555	919	401	25	11	12	4,571
ピーク時の 避難所数	120箇所	74箇所	90箇所	96箇所	79箇所	69箇所	41箇所	16箇所	29箇所	599箇所
就寝者数	60,700	35,000	35,172	26,300	35,347	21,067	6,926	1,777	2,348	222,127
避難者数	65,859	40,394	39,090	26,300	55,641	21,728	4,747	1,787	2,360	236,899

◆物的被害（全壊・半壊 H7.11.20現在 全焼・半焼・部分焼 H8.2.1最終）

（棟）

	東灘	灘	中央	兵庫	長田	須磨	垂水	西	北	合計
全 壊	13,687	12,757	6,344	9,533	15,521	7,696	1,176	436	271	67,421
半 壊	5,538	5,675	6,641	8,109	8,282	5,608	8,890	3,262	3,140	55,145
全 焼	327	465	65	940	4,759	407	1	0	1	6,965
半 焼	22	2	17	15	13	9	2	0	0	80
部分焼	19	94	22	46	61	20	5	1	2	270
ぼ や	2	0	8	52	1	6	1	1	0	71

※全壊：住家の主要構造部（壁・柱・梁・屋根・階段）の損害額が、その住家の時価の50%以上に達した程度のもの

※半壊：住家の主要構造部の損害額が、その住家の時価の20%以上50%未満に達した程度のもの

（参考）修正前の発表数字 全壊 54,949棟、半壊 31,783棟（H7.2.5現在）全焼 7,061棟、半焼 331棟（H7.4.14現在）

*（資料：阪神・淡路大震災 被災状況及び復興への取り組み状況 神戸市 平成12年2月1日現在）

3 都市機能の被害

建築物、構造物の被害	全壊 67,421棟 半壊 55,145棟（H7.11.20現在）
火災による焼損（確定値）	全焼 6,965棟 半焼 80棟 部分焼 270棟 ぼや 71棟 延べ焼損面積 819,108㎡ 火災件数 175件（震災とほぼ同時に54件発生）
交通ネットワークの寸断	阪神高速道路3号神戸線・同5号湾岸線等の倒壊 陥没、高架構造物の落下、建築物倒壊等による道路寸断 鉄道の寸断、海上都市へのアクセスの寸断
港湾施設等の被害	コンテナバース、岸壁がほとんど全て使用不能 湾岸幹線道路の寸断
埋立地の液状化	東部2～4工区、ポートアイランド等で液状化
ライフラインの寸断	電気：市内全域停止 電話：約25%停止 水道：市内ほぼ全域停止 工業用水道：市内全域停止 ガス：約80%停止 下水道：管渠・ポンプ場破損、処理場の機能低下（2／7ヶ所）及び機能停止（1／7ヶ所） クリーンセンター：全クリーンセンターの運転停止
公園	1／3の公園が擁壁崩壊、舗装陥没、地割れ等の被害
河川	2級河川 117箇所破損 準用・普通河川 27箇所破損
治山・砂防	緊急復旧を要する箇所 68箇所
社会・産業面のストック全体の損害額（推計値）	約6兆9千億円

※ 資料「阪神・淡路大震災 神戸の生活再建・5年の記録（神戸市生活再建本部）」参照

4 神戸産業の被害

基幹事業所及び製造大手企業	本社等中枢建築物の倒壊 生産ラインの停止
中小企業・地場産業	ケミカルシューズ 約80%が全半壊または全半焼 清酒造 50%以上の企業が全半壊
市場・商店街	旧市街地の商店街の約1/3、市の約半数が甚大な被害
観光・コンベンション施設	観光施設、宿泊施設、コンベンション施設などで建物損壊などの被害
農漁業施設	漁港、漁船だまり、農地、農業用施設等が多数被害

※資料「阪神・淡路大震災 神戸の生活再建・5年の記録（神戸市生活再建本部）」参照

第2節 職員・職場の被害状況

1 職員の死亡と被災状況

神戸市職員の死亡は15名で、うち市職労組合員は、小林桂子(民生)さん、鍵谷卓司(病院)さん、兼本詩織(同)さん、田中元裕(環境)さん、中田邦三(土木)さん、吉岡史子(垂水)さんの6名がお亡くなりになりました。

また、組合員の被災状況は、親族の死亡が53件、全壊(全焼)693件、半壊(半焼)1,229件、一部損壊4,067件とその合計は、5,989件におよび、全組合員の約6割が物理的被害を受けるという事態となりました。



【支部別被害状況一覧】

1997年1月16日現在 ※申請時の在籍支部で計算

支部名	全壊(焼)	半壊(焼)	一部損壊	合 計	本人死亡	配偶者	こども	実親	義理親	計
総 務	35	44	172	251					2	2
理 財	12	7	43	62				1	1	2
外 大	6	11	31	48						
農 政	10	14	80	104						
経 済	8	11	48	67				1		1
環 境	20	38	142	200	1			1		
教 育	38	52	152	242					2	2
市 場	3	6	20	29				1		1
市 民	13	16	84	113						
衛 生	31	70	222	323				5	1	6
病 院	91	259	502	852	2				2	4
民 生	158	269	775	1,202	1		3	8	3	15
港 湾	29	38	115	182				2		2
開 発	10	17	107	134						
都市計画	36	52	261	349			1	2		3
土 木	36	52	211	299	1	1		3	2	7
下 水 道	14	39	133	186			1		1	2
住 宅	17	26	177	220				1	1	2
東 灘	21	41	68	130						
灘	20	35	55	110				1	1	2
中 央	13	26	106	145				1		1
兵 庫	14	14	95	123				1		1
北	12	32	97	141						
長 田	12	14	69	95						
須 磨	15	17	84	116				1		1
垂 水	17	15	101	133	1	1				2
西	2	14	117	133				1		1
計	693	1,229	4,067	5,989	6	2	5	30	16	59

2 神戸市役所の庁舎や事務所の被害も甚大

本来、防災拠点の役割を果たさなければならぬ神戸市の庁舎や事務所も多くのところで重大な被害を被り、その機能を十分果たすことができませんでした。本庁舎2号館は壊滅し、建設担当の職場は1号館と周辺に分散して業務を遂行せざるを得なくなり、復旧活動に多くの支障が生じました。災害対策本部が設置された1号館も当初は、救援物資の集配の窓口であったため、鉄道もバスも不通の

なか、全国から昼夜を問わず届けられる物資の手配に忙殺されました。

各区総合庁舎にも災害対策本部が設置されましたが、避難所での救援・救護活動や遺体の安置など、その活動は困難を極めました。

震災時に医療現場において西市民病院が壊滅し、中央市民病院のポートアイランドが孤立状況に置かれたことは、痛恨の極みとなりました。